

## 厳冬期の知床五湖エコツアー事業の評価について（再掲）

## 1. 利用者数について

- ・1年目は747人、2年目は2,127人となり、目標の1,200人を大幅に超えることができた。利用上限数である9,000人（一日150人×60日）には余裕がある。
- ・1日当たりの最大利用者数は83人（2年目の2月13日）で、1日当たりの上限である150人には余裕がある。

⇒現時点で利用者数の上限に迫っているという状況ではなく、本ツアーが周辺環境に大きな影響を与えているとは考えにくい。

⇒一方で、同時に多数のグループが出発することで静寂感が失われてしまうことは課題である。

## 2. 安全対策について

- ・実施期間の60日間で、中止日数は1年目が14.5日、2年目が4日となっており、気象の変化は年によって異なり、利用者数、催行数は大きく左右される。
- ・暴風雪等によるものや、その他の危険事例は特に報告されていない。

⇒早めの開閉判断、事故対応マニュアルの策定等により、危険事例は発生しなかった。

## 3. 外国人について

- ・1年目は3割超、2年目は4割超と多くの外国人が利用している。
- ・当日キャンセルが多く、事業者は苦慮している。
- ・日本人利用者と外国人利用者が混在した場合のトラブルが多少ある。

⇒多少のトラブルはあるものの、冬期の外国人観光客の受け皿となっている。

## 4. 植生への影響とコースについて

- ・融雪に伴い、地面が露出したところは、ルートから外すという対応を取っている。
- ・植生への配慮等について、引率指導者（ガイド）同士で注意喚起等がなされている。

⇒植生に大きな影響を与えているとは考えにくい。一方で、静寂性の確保のため、植生に影響を与えない範囲でルートに幅を持たせてはどうかという議論がある。

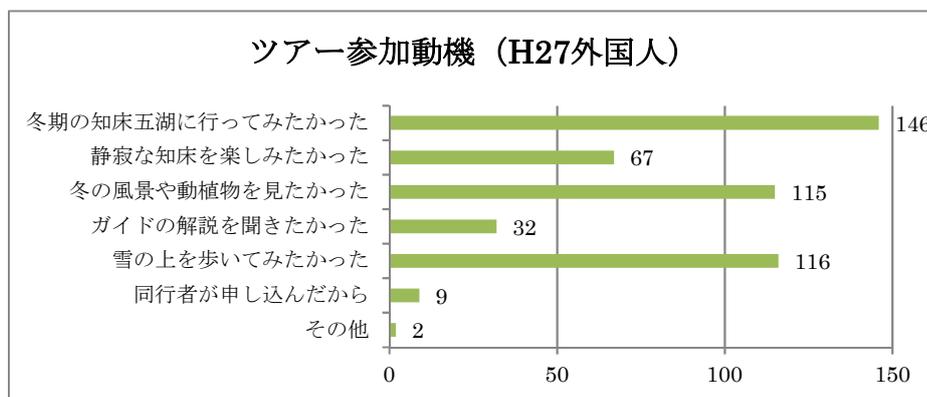
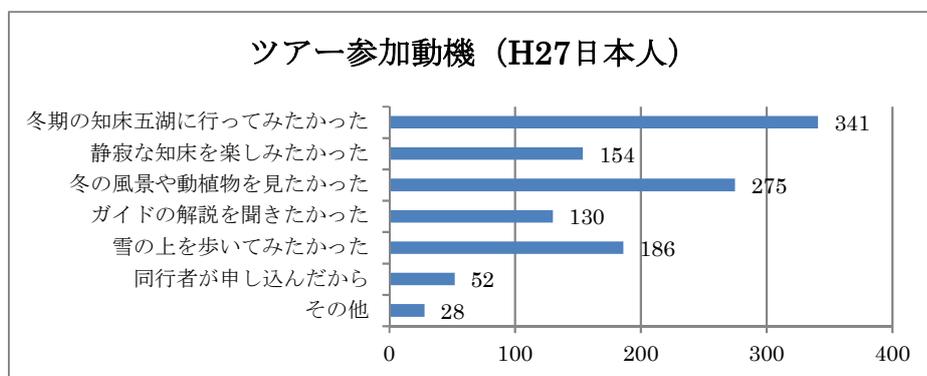
## 5. 利用のあり方について

- ・ツアー以外で五湖に立ち入っている利用者とのトラブル等があった。
- ・トイレについて、拡充すべきという意見と、バックカントリーと位置付けているため必要ないのではという意見がある。

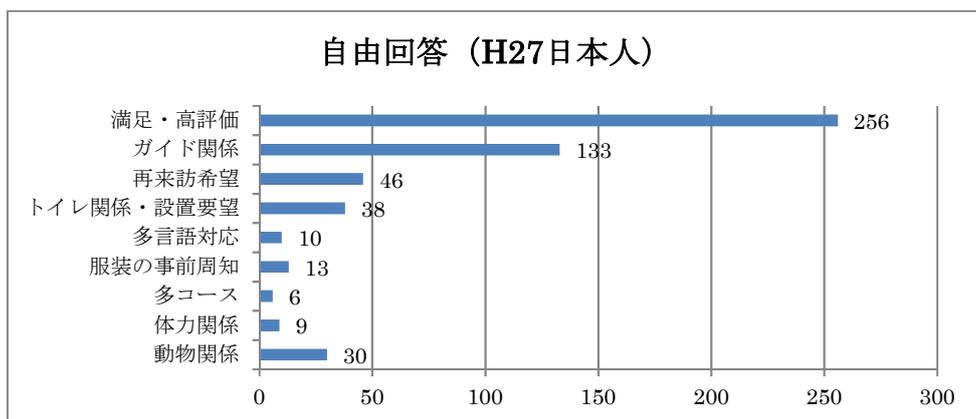
- ・静寂性の確保のため、スタートの時間をずらしたりコースを分けたり（逆回転コースなど）してはどうかという意見がある。

## 6. 利用者の意向について

- ・2年間のアンケート調査を実施している。
- ・日本人利用者の属性では、年齢構成は20代～60代まで年代を問わず平均していた。旅行形態は、個人旅行が全体の8割超だった。
- ・外国人利用者の属性では、20代・30代の若い世代が7割を占めていた。複数回日本を訪れているリピーターが3分の2を占めた一方で、9割以上が知床の訪問は初めてであった。
- ・ツアーの参加動機としては、冬の五湖に行ってみたい、風景や動植物を見たい、雪の上を歩きたいという3点が多く、日本人も外国人も共通している。



- ・自由回答では、満足度及びガイド評価が高く全体の72%を占めている。
- ・自由回答では、トイレに関する要望が多く、2年目から五湖駐車場に仮設トイレを1基設置している。



#### 7. 収支について

- 1年目は、オホーツク総合振興局より地域づくり総合交付金 80 万円が交付され、21,532 円の赤字で、観光協会が負担。
- 2年目は、地域づくり総合交付金を申請していたものの、収入が増加したため交付対象とならなかった。収支は、767,284 円の黒字であった。